豊玉二中だより

平成２８年度　　第３号
発行日　６月２４日(金)
練馬区立豊玉第二中学校
校　長　　中　山　　徹

「感動の瞬間」

副校長　　大熊　恵子

緊張した空気の中でも気持ちのコントロールができ、目の前にある「すべきこと」に前向きに取り組む姿勢や態度をもっている生徒たち。豊玉第二中学校の生徒たちは、そんな生徒たちです。

５月末に実施した運動会は、どの生徒も本当に一生懸命に、前向きに取り組んでいました。
本番約２週間前から本格的に練習に入りました。最初は、「練習を始めるのがこんなに遅い時期で大丈夫かな？」と思いましたが、生徒たちの集中力や行事に対する熱い気持ちを肌で感じ、真剣に練習をする生徒・教員の姿を目の当たりにした時、そのような不安は私の頭の中から消え去りました。。

運動会当日、本番の「大縄跳び」をご覧になりましたか？　本番は記録が「０回」のクラスはありませんでしたが、実は・・・、本番２日前まで、「いーち」「いーち」「いーち」と何回も「１」を繰り返したクラスがありました。縄を回す人と跳ぶ人のタイミングがうまく合わず、１時間中、ずっと大縄跳びの練習を繰り返していました。

でも、生徒たちはあきらめませんでした。教室では、どうしたらうまく跳べるのか、多くの回数を跳べるのかを、皆で知恵を出し合って考えました。
職員室では、担任やその学年の教員だけでなく、他学年の教員や事務主事、用務主事も一緒に考え、アイデアを出し合いました。
なんとか続けて跳べるようにしたい、させたい・・・・。

そして当日、「感動の瞬間」です。「いーち」「にーい」・・・。あきらめずに、繰り返し練習してきたことが、やっと実った瞬間でした。

大縄跳びでは、「感動」がもうひとつあります。うまくタイミングが合わない友達を支えながら、抱きかかえながら、一緒に跳んでいる生徒がいました。タイミングが合うように「そーれ」などと声をかけるくらいなら、ほかの学校の生徒でも取り組んでいます。自分が跳ぶだけでも「しんどい」はずなのに、与えられた時間ぎりぎりまで、時には声をかけながら、ずっと友達を抱きかかえて跳び続けていました。

運動会では、勝ち負けや競うことばかりに目を向けがちですが、協力する心や支え合う心が本校生徒に着実に育っていることを実感しました。

教職員が一丸となって日々実践している「心を育てる教育」が、運動会という行事の中で、ひとつの形として現れたのです。

「中学生って、やっぱりいいなあ。」
彼らから元気をもらったように思いました。